

人に好かれる「5つの質問力」

会話の中で次の5つの方法を使って質問してみましょう

1：共通点より相違点

「共通点と親密度は比例する」とよく言われます。ですので、質問力で大切なのは「共通点を探すこと」とも言われます。ただ、共通点はそう簡単に見つからないことも多いです。共通点が見つからないからといって、また次の質問を始めてしまうと、それは「質問攻め」となり、不快な思いをさせてしまうかもしれません。ですので、「共通点」であれ「相違点」であれ、次に繋がる会話を続けます。むしろ、相違点のほうが、会話が広がり、相手に喜んでもらえる会話に繋がることも多いんです。

2：時間軸を変える

時間軸とは「過去・現在・未来」です。同じテーマであっても、時間軸を変えると、質問量がぐんと増えます。例えば、「趣味」をテーマした場合でも、過去に楽しんでた趣味、今楽しんでる趣味、これからしてみたい趣味。何か話題が出たら、その話題について、時間を変えて質問してみると、話が膨らみます。

3：想像を加える

もしもの質問。「もし、今時間があつたらどんな趣味を始めてみたい?」、「もし、新しい車買うとしたら、どの車買う?」といった感じです。相手の方の興味を知った上で、もしもの質問をしてみましょう。

4：固めたり分解したり

例えばスポーツというテーマはかなり広いです。球技⇒野球（サッカー）、陸上⇒短距離（長距離）などに分解します。逆に「視力が悪い」という小さな話題になったら、次は、「目の健康」、さらに「健康全般」と、大きな分類に固めていきます。質問を固めたり分解したりしてみましょう。

5：5W3Hで質問する

・When（いつ）・Where（どこで）・Who（誰が）・What（何を）・Why（なぜ）・How（どのように）・How many（どのくらい）・How much（いくら）

一つの話題に対して8つの質問がすぐに浮かんでくると、質問力は強くなります。ただ、使い過ぎると質問攻めになりかねないので注意しましょう。